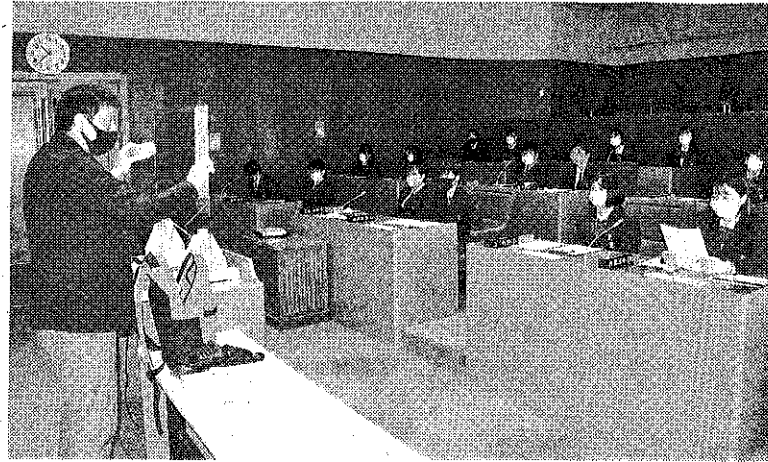


探究授業で町の現状学ぶ

白糠高1年生 役場訪問



町職員の講話に聞き入る生徒

【白糠】白糠高校(田村 信明校長)の1年生20人が7日、総合的な探究の時間(白糠学Ⅰ)の一環で町役場を訪れ、講話などを通して公務員の仕事や町の現状について学んだ。地域への理解や関心を深める地域探究活動のスタートとして初めて実施した。

職してほしい」とあいさつ。続いて町制施行70周年記念映像を観賞した。

講話では、地域防災課の太田耕平地域防災係長が町内での津波や洪水を再現したシミュレーション動画を上映し避難時の心構えを説いた。経済課の森谷寿彦主幹は映像を用い胃洗浄による鮮魚の高付加価値化など町内での1次産業における取り組みを紹介した。

最初に木村政勝副町長が「先人が苦勞してつくってくれた町を子や孫へつないでいくのが私たちの使命。最近では白糠高校からの入庁者が少ないが、ぜひ役場に奉

積み上げること、自分の考えやアイデアを、まっすぐに反映できる」と語った。松川真人さん(15)は「1次産業についての講話で、揺れる船上で魚の血抜きや神経締めをしている映像を見たのが印象に残った」と話していた。

(水谷友路)